

紅梅會會報



第102号

会長あいさつ

60回生 三上 れつ



新春を迎え、会員の皆様にとって穏やかで良い年になりますようにお祈り申し上げます。

本年は「未（ひつじ）年」。温和ながら意志の強い、聡明で忍耐力のあることが求められる年でもあります。

昨年は、広島のと砂災害、御嶽山の噴火などに見舞われ、東日本大震災の復興も遅々としている中で、自然災害の脅威に不安をもった1年でした。新年早々には、フランスのテロ事件や日本人質事件などがあり、それぞれの国の文化等について考えさせられました。私たちは自然や社会の影響を受けながら生きているわけですが、あらためて人間の生命の大切さと尊厳を守るための叡智を結集していくことが求められている時代になっていると痛感しております。原発の再稼働、集団的自衛権、憲法改正等の議論に加えて、10年後に到来する超少子高齢社会への対応も急務です。目まぐるしく変化するこのような不安定な時代にこそ、人々の人間らしい生活を取り戻せる一矢を看護が放てるようにしたいものです。

今年は、戦後70年という節目にあたります。信濃町キャンパスは三分の二が戦禍に遭い、ほとんど何もない中で復興しなくてはなりません。当時の医学部長や医学部教職員、そして先輩諸姉らのご尽力により病院の診療や看護が継続・再建されてきたことを思うと、歴史をつないでいくことの責任を感じます。会報でも紹介しておりますが、新病院棟建設事業も進んでおります。戦後、病院が完成するまでの長い年月を顧みると色々な思いがよぎる先輩方も多いのではないのでしょうか。紅梅会としては、是非、こちらの事業にも協力をしていきたいと考えております。

今期の最重要課題は、慶應看護100年記念事業（2018年）を成功させるための資金捻出ですが、会員ならびに関係者の皆様のご協力により、半年で目標額の半分である1,000万円を達成いたしましたことをご報告申し上げます。今回の会報にも、募金用紙が同封されているかと存じます。つきましては、募金目標額2,000万円の達成のために、会員の皆様方の更なるご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、皆様、5月10日（日）の母の日の総会でお目にかかれることを委員一同楽しみにお待ちしておりますので、各回生のクラス会などを兼ねてご参集いただけますようお願い申し上げます。

春号の主な内容

- ◆ 2015年度 第72回 総会のご案内 … 2ページ
- ◆ 慶應義塾大学病院のトピックス …… 3ページ
- ◆ 看護医療学部だより …………… 4ページ
- ◆ 学部での研究内容報告 …………… 4ページ
- ◆ 学部生の活動 …………… 5ページ
- ◆ 世代をつなぐ [Link age] 活躍する同窓生 …………… 6ページ
- ◆ 同窓会報告 …………… 7ページ
- ◆ 研修会報告 …………… 8ページ

会報発送者数3344名（2015年2月28日現在）

第72回 総会のご案内

今年も、母の日に東京ガーデンパレスホテルで紅梅会総会を開催いたします。

毎年、「生き生きと元気に過ごす」をテーマに講演を企画して参りました。昨年の「足」「歩行」というキーワードを引継ぎ、今回は「膝」をキーワードにいたしました。講師は、慶應義塾大学病院スポーツ医学総合センターの松本秀男教授です。なぜ膝に水が溜まるのか、予防するにはどうすればよいかなど、日常生活を快適に過ごすための楽しいお話を伺えると思います。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(準備委員長 84 回生 江河 都美)

日 時

2015年5月10日(日)

午前10時30分開会 午後2時閉会 (午前10時開場)

場 所

東京ガーデンパレス <会場>高千穂

〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5

(御茶ノ水駅より徒歩5分聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏)

TEL 03-3813-6237

<http://www.hotelgp-tokyo.com>

会 費

8,500 円

会場への道順は同封の地図を参照してください



申し込みについて

* 総会の出欠は4月20日(月)までに同封のはがきで返信し、同封の振込用紙で4月27日(月)までに入金をお願いします。

* 付き添いの方が参加される場合は席をご用意します。また、**実費(6,250円)**で付き添いの方の食事のご用意も承りますので、同封のはがきの通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

* 駐車場割引・宿泊割引があります。直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせください。

プログラム

- | | |
|---|--|
| 1. 開会の言葉 | 7. 講演
テーマ
「毎日働き続ける膝に感謝」
慶應義塾大学病院
スポーツ医学総合センター
教授 松本秀男 |
| 2. 会長挨拶 | |
| 3. 報告事項
看護医療学部現状報告
大学病院現状報告
役委員会報告 | 8. 会員代表挨拶・乾杯
会食 |
| 4. 審議事項 | 9. 閉会の言葉 |
| 5. 質疑応答 | |
| 6. 新旧役員挨拶 | |

「慶應看護100年記念事業資金」のご協力・ご支援のお願い

慶應看護教育は、2018年に100年を迎えます。紅梅会はその記念事業の活動資金として、2,000万円を2017年3月迄に達成する目標に向かって活動を開始いたしました。昨年の7月吉日、皆様の元に「慶應看護100年事業資金」の募金趣意書、募金要綱及び具体的な事業概要・募金用途についてのパンフレットをお届けいたしました。既に、ご協力いただきました皆様には、深く感謝申し上げます。ご寄附者氏名は「三田評論」2015年2月号より随時掲載となります。

同様の資料を同封させていただきました。引き続き、2015年度も皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。なお、振込用紙には、回生、氏名(フリガナ)、住所、電話番号を必ずご記入ください。

5月の紅梅会総会において、途中経過を報告いたします。

(100年記念事業支援活動委員長 49回生 藤村 龍子)

慶應義塾大学病院のトピックス

1. 新病院棟建設事業進捗状況

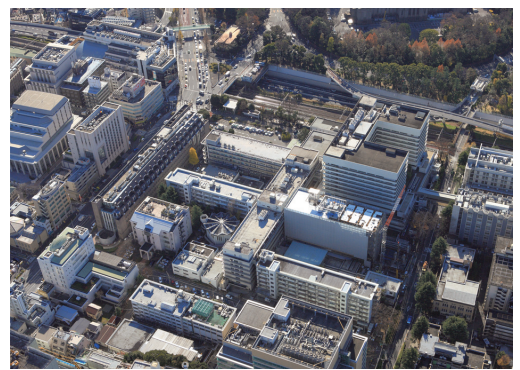
文責：85 回生 梅田 光代（新病院棟開設準備室師長）

新病院棟の建設は、I 期棟と II 期棟と分かれて建設されていきます。I 期棟建設が 2014 年 4 月より始まり、2015 年 7 月竣工に向けて建設中です。I 期棟内には、2015 年夏に放射線部門、内視鏡部門と、2つの病棟等が移転を予定しています。その後、現中央棟、7号棟が解体作業され、II 期棟の建設が始まります。

建設エリアが狭隘な事や、工期短縮の為、階段部分の鉄骨などの部材などあらかじめ工場で作製し、現場に搬入しています。また、敷地東側（中央棟寄り）から6階部分まで柱や梁を設置した後、西側（大京町寄り）に向かって建設を進める工法を採用しています。ワンフロアの天井の高さは現2号館より高くなる為、新病院棟の屋上部分は現2号館の8階フロアと同じ高さになります。



紅梅寮屋上より見た I 期棟建設状況 (2015年1月23日撮影)



航空写真 (2014年12月22日撮影)

2. 慶應義塾大学病院 Web サイト リニューアル

文責：88 回生 藤本 純子（看護情報管理師長）

2014 年 6 月 30 日、大学病院公式 Web サイトを全面リニューアルしました。

新しい Web サイトは、(1) 患者さんの安心感につながる内容 (2) 見やすさ、使いやすさ (3) 医療関係者向けの情報が充実 などの特徴を備えています。例えば、実際のスタッフや病院の写真、優しい色合いのイラストを多用した、あたたかみと安心感のあるサイトデザインとし、医療スタッフの姿勢を分かりやすく伝えるコンテンツを掲載しています。また、医師・病名検索機能と、慶應オリジナルの医療の発信サイトである「KOMPAS・慶應義塾大学病院・医療健康情報サイト」を連携し、診療・治療実績データも豊富に掲載しております。そして現在主流となっている、モバイル端末に対応する仕様となっております。

患者さんや、これから受診を考える方、あるいは病院に就職を考えている方にとって、安心感と実用性につながる情報を取得できるサイトとなりました。そして紅梅会の皆様には、大学病院の今の取り組みや発展をご確認いただければと思います。



慶應義塾大学病院 web サイト

看護部のページは、トップページの「診療科・部門一覧」から「看護部」をクリックし閲覧できます。また看護部のページから、さらに詳細な看護部ホームページにリンクできますので、こちらも合わせてご覧ください。

現在は、東京オリンピック開催など国際化も踏まえ、英語版サイトの制作を進めています。今後もより見やすく、充実した Web サイトにしていく予定です。

慶應義塾大学病院

<http://new-www.hosp.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学病院看護部

<http://new-www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/nursing/>

慶應義塾大学病院看護部ホームページ

<http://kango.hosp.keio.ac.jp/index.html>

(78 回生 鎮目 美代子)

慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、
 美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。
 合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
 赤倉山荘
 電話：0255-87-3900 FAX:0255-87-3905
 e-mail: ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務室(三四会内)
 電話：03-3359-0227 FAX:03-3358-0664
 e-mail: info@sanshikai.jp

看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリの活動：ORF2014 が開催されました

皆様は、SFC（湘南藤沢キャンパス）のORF（Open Research Forum）をご存知でしょうか。

SFCでは、その研究成果を社会へ還元するための一般公開の場として、1996年から毎年ORFを開催しています。外部の評価を得ると共に産官学協力関係の円滑化と強化を図り、研究活動に反映させるということを目指して、2003年からは都内で開催されるようになりました。

今年は六本木の東京ミッドタウン、ニコファールをメイン会場に、都内7つのサテライト会場で、「PROTO-UNIVERSITY」というテーマで11月17日（月）～22日（土）に開催されました。150を超える研究成果の展示発表、40のトークセッション、来場者が自ら「創る」「体験する」ことができるワークショップなどが行われました。

看護医療学部では、看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリ（NBP）の展示をはじめとした、教員、学部生、大学院生の研究・活動を発表いたしました。トークセッションでは、共同して研究・活動を行っている大学病院職員や患者会活動の代表者等がスピーカーとして登壇し、興味深い内容の発表が行われました。NBPのブースでは、高齢者に対する認知症予防・健康増進のために行っている園芸活動の特徴や楽しさを知り、共有できる機会をつくるために、小グループでの多肉植物の箱庭づくりも実施し、多くの方にお越しいただきました。特に22日（土）には、終了間近の時間まで質問の方がいらっしゃるなど、大変盛況でした。また、学部若手教員で組織される「わかばの会」の展示には、「活動を知る良い機会になった」と卒業生や学部生からのコメントがありました。看護の学会とは趣が異なり、様々な来場者に看護の研究・活動を知って頂く機会となりました。



ORF2014：看護医療学部の発表内容

【展示・ポスター】

●看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリ

- ・看護ベストプラクティス研究開発・ラボわかばの会～若手研究者の活動と課題～
- ・高齢者に対する認知症予防・健康増進のための園芸活動の試み
- ・がん患者の親をもつ子どもへの支援
- ・日本冷え症看護／助産研究会

●地域のお互いさまの絆づくり

～子育てを通じて気心の知れた地域のつながりをつくろう～

●知ろう！うつ病～あなたとあなたの大切な人は大丈夫？～

●ラオス・プライマリヘルスケア・プロジェクト：小学校における健康教育

●がん看護の innovator

●第8回 SFC 学生の研究・活動発信（英国・米国における学部生の研修報告 2件）

【トークセッション】

●患者学：患者に学ぶ、患者も学ぶ

●がん患者の親をもつ子どもへの支援

●地域のお互いさまの絆づくり

～子育てを通じて気心の知れた地域のつながりについて考えよう～

学部での研究内容 報告

冷え症の実践知にエビデンスを！

看護医療学部で母性・助産領域の教員をしています中村です。私の研究分野は冷え症であり、特に妊産婦の冷え症について研究をしています。私の先行研究の結果、妊婦が冷え症であることで早産等の異常分娩の発生率が高くなることが推定されました。一方、助産師外来を有する施設では、異常分娩の誘因として冷え症を重要視し、日常生活行動の見直し等のケアを積極的に行っています。しかし、そのケアにエビデンスはなく、エビデンスによる裏付けのニーズは高い状態です。

そこで、現在は冷え症である妊婦を対象に、「サスティナビリティ（継続性）の高いセルフケア支援プログラム【自宅でできる】冷え症改善パック」を作成し、冷え症の改善への有効性を評価することを目的とした研究を実施しています。プログラムの内容は、「レッグウォーマーの着用」、「妊婦のための冷えとりエクササイズ」、「湧泉のツボ押し（足の裏）」です。実施群にはプログラムを4週間実施してもらい、実施しない群との間の冷え症の改善状態の違いを評価します。また、この研究の特徴として、毎日 Web アプリケーションにてプログラムの実施状況をセルフ評価するもので、イメージキャラクターの「フィガロちゃん」から毎日応援メッセージが届きます。このような工夫を行いサスティナビリティの高さを狙っています。

私は今後も、実践の現場や社会のニーズにあった研究を行い、その成果をエビデンスとして還元したいと考えています。なお、並行して「日本冷え症看護／助産研究会」の活動も行っています。是非、ご入会下さい！お待ちしております。

妊婦の冷え症研究公開サイト：<http://plaza.umin.ac.jp/hiesho/>

日本冷え症看護／助産研究会サイト：<http://hiesho.kenkyuukai.jp/>（看護医療学部 専任講師 中村 幸代）

地域住民と共に歩んだ 4 年間

1000年に一度と言われる巨大地震、東日本大震災から今年で4年になります。あの頃、入学式が1ヶ月遅れで行われ、土日も講義がある学事日程を経験した最後の学年となり、今年で卒業です。

私は、第1学年から地域看護学研究室での子ども虐待に関する研究に参加しています。この研究は、地域の絆をさらに強めることで、地域の人々が支え合い、子育てをしていく輪が広がることを目的としています。具体的には、神奈川県小田原市A地区を対象に4年間で地域の子育ての課題を明らかにし、地域の寄り合い（コミュニティ・ミーティング）と解決までの道筋を立てる活動を行うことです。

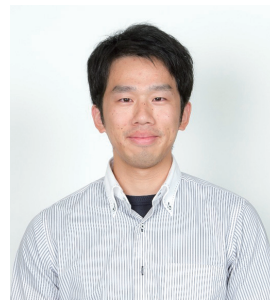
私を含めて学部生5名が中心となって、子育てに関する情報誌を発行しています。そのため、実際にA地区を歩きながら地区踏査をし、地域に存在する絆を探しながら、地区を良く知ることから始めました。また、担当の保健師、主任児童委員のインタビュー、講演会の様子等を情報誌に掲載し、地域に子育てに関する情報を発信しました。

2013年秋から実施された全4回の寄り合いを通して、この地区には「子どもの交流の場がない」という課題が挙がりました。それにより地区の方々が自ら地域の問題や課題に目を向け、実際にその解決に向けて周囲の人たちに呼びかけ、協力し合うことで子育て広場が誕生しました。

この4年間、机上で学んだ講義の内容を、実際の社会の中で試行錯誤しながら地域の特性にあった形で応用し、その成果を評価できる段階まで進めることができました。外部の組織が地域の中で認められ、理解を得るまでには、相当な時間と関係性の構築が何より重要であると強く感じました。また、地域に眠っていた種から芽を出し、その芽から花を咲かせるには、住民がその存在に気づく「きっかけ」が必要であり、そのきっかけ作りに学部生として貢献できたと思います。

卒業後はこの経験を生かして小児の専門病院で看護師、保健師として従事し、看護医療学部の卒業生であることを誇りに思い、21世紀の社会で活躍する人材として、日本に貢献します。

(看護医療学部 4年 岡部 卓也)



医療系学部生による課外活動を通して

私が所属している慶應義塾大学医薬看3学部合同学生団体CISCA(シスカ)は、2010年の結成当初より「医療系学生に新しい価値観を」という理念の基で活動をしています。日頃はそれぞれの専門領域に特化して学習をしている各学部の学生ですが、さまざまな活動を通して相互理解を促進し、新たな発見や学びを得て、将来患者さんや社会に貢献できる医療者へと成長したいと考えています。

具体的な活動としては、慶應義塾大学病院小児科でのボランティア活動をはじめ、講演会の開催、他の医療系学生団体との交流、医療に関わるテーマの映画を鑑賞して意見交換を行う会等、幅広い活動を行っています。小児科ボランティアは、週1回読み聞かせをする活動と季節のイベントを開催する活動があります。読み聞かせボランティアでは子どもを1対1で受け持たせてもらい、本を読んだり一緒に遊んだりしています。実習時間である日中に見たときはまた違った姿の子どもたちと触れ合うことができ、とても勉強になります。イベントボランティアでは、夏祭りやハロウィン、クリスマスといったさまざまな季節行事があり、子どもたちに楽しんでもらうために準備をしていくのですが、終わるころには私たちが子どもたちから笑顔や元気もらっています。

CISCAの活動を通して私が感じたことは、他者の視点や価値観を知ることのおもしろさです。CISCAでは3学部それぞれの学生が自分の考えを述べることで、自分の中にはなかった考えを知ることや自身を振り返ることのきっかけとなっています。そしてこれは、実習や普段の生活の中でも同じだと思います。他者と自身を理解することは、将来医療職として働くにあたって重要なのではないかと考えています。

最後になりましたが、今後とも学生団体CISCAをよろしくお願い致します。

(看護医療学部 4年 飯泉 早慧夏)



今回は、アメリカ合衆国で看護師としてのキャリアを歩んでこられた方と、旅館の若女将としてご活躍されている方を紹介します。

ソーシャルネットワークの普及により、卒業後も学生時代に交流のあった仲間の発信する情報を得やすくなりましたが、それにも限界はあります。このコーナーを通して、より多くの同窓生のつながりをお知らせできればと思います。

私の足跡とこれからの人生

62回生 清水 ダルトン 米子

東京育ちの私は17歳の時、アジア・アフリカの困っている人々の力になりたいと思い、看護師になりました。

厚生女子学院卒業後、慶應義塾大学病院で少し働き、そして、オイルタンカーや客船のシッフナースとして洋上看護も経験しました。その後、厚生女子学院へ戻り、教員として看護教育に携わりました。

2年間の洋上看護で実感したことは、正確で適切なコミュニケーションがとても重要であるということでした。そして、英語が世界の人々をつなぐ言葉になっているということでした。そこで、これからの共通語になるであろう英語をもっと学び、同時に将来に渡り看護師を続けていくであろうことを見据えて、看護学士号にも挑戦したいと思い米国行きを決めました。

大好きなハワイでの厳しい留学生活が始まったのは、私が31歳の時でした。ハワイ大学での4年間はとても厳しかったのですが、看護学士号を取得することができました。それは多分にも夫のブルースのおかげだと思って感謝しています。

1991年以降、オレゴン州ポートランドにある病院で長年看護師（RN-BC^{*1},BSN^{*2},CNRN^{*3},CL 4^{*4},CI^{*5}）として働いていますが、いよいよ今年65歳になるので退職することに決めました。

これまで44年間、看護師として人相手の仕事をしてきましたが、私にとってそれは、つくづく難しいということが分かりました。これからは、人による保護・介護が必要不可欠な動物たちの役に立ちたいと思っています。

【注釈】 ※1 RN-BC：Registered Nurse -Board Certified in Medical Surgical Nursing -by American Nurses Credentialing Center, is accredited by the National Commission for Certifying Agencies and the Accreditation Board for Specialty Nursing Certification.

※2 BSN：Bachelor Degree of Science in Nursing

※3 CNRN：Certified Neuroscience RN - by American Board of Neuroscience Nursing

※4 CL4：Clinical Ladder 4 -by the Providence Portland Medical center, my employer

※5 CI：Clinical Instructor of Portland school of Nursing



ホスピタリティー

短8回生 多田 弥生 (和倉温泉 多田屋 若女将)

私は、祖父が医者だったこともあり、物心ついたころから看護師になりたいと思っていました。その夢が叶い小児看護の道を選び、看護師を6年経験した後、小児看護実習指導も経験させて頂きました。

その後、縁あって能登の旅館に嫁ぎ丸8年が経ちました。旅館に嫁ぐと分かった時に、家業の大変さも知らず、旅館の女将の仕事が想像できるわけでもなく、毎日温泉に入ってお馳走が食べられると、楽観的に考えていました。嫁いだけで若女将と呼ばれるようになった私に、旅館のスタッフも戸惑い、もちろん、私に新人研修というものではなく、嫁いだ日から若女将になりました。とにかく、人と接することは嫌いではなかったですし、看護師をしていたというプライドもありましたので、自分の居場所を作ろうと一生懸命でした。そんな矢先、ご年配の方がいらっしやっした際、思わず手を伸ばしたことがありました。その私の手をパッと払い、「私は病人ではないのよ」とおっしゃったお客様の一言とお顔は今でも忘れません。その時に、お客様との距離感というのを今まで以上に考えるようになりました。また、旅館はお客様との再会を楽しみにできる場所だということに気がきました。「また来て下さいね」と笑顔でお見送りします。看護師としても患者様の命を預かるという思いでやっておりましたが、今、若女将としても同じ思いでやっております。旅館もお客様の安全第一です。お客様の財産、命をお守りし、そして人生の思い出の一つとして旅館にご宿泊頂くことがいかに大切なことかを実感しております。



病院もホスピタリティー、旅館もホスピタリティー、角度は違っても患者様、お客様に対する気持ちは一緒です。私が今こうして若女将業をしていられるのも看護師だった時の経験と、誇りがあるからだと思っています。

和倉温泉 多田屋 URL：<http://tadaya.net/>

32年目の同窓会

82回生 成合 明子

私たち82回生は、1980年に80名で入学し、うち1名が親の転勤で海外に行きましたが、3年後には残った79名が全員そろって卒業しました。あっという間に31年が経ち、2014年8月24日、新宿高島屋内の中華料理店で8回目の同窓会が開かれました。33名という多くの方が参加され、あの大変だった実習を励ましあった仲は「何年経っても変わっていないね」と会った瞬間から大盛り上がり、大歓声です。

同級生では、慶應義塾大学病院や看護医療学部勤めている方も7名おり、昨年、勤続30周年記念を頂いたそうです。慶應義塾以外でも、管理職や経営者になった方、「ときどきテレビに出ます」という方もいて、大活躍されている様子が同級生として誇らしくも思えました。また、私たちは看護師として経験を積んだころに介護保険制度が始まり、包括支援センターや訪問看護事業所などで働く方も複数おり、介護保険制度の改正の度に大変な思いをしている話なども聞きました。



さらに、子供の受験や引越しのために東京から青森に行ったとき現地にいる懐かしい同級生に会えたお話、病気になったとき慶應病院に勤務している同級生から先生を紹介してもらい信頼して治療できたお話、子供の進学や就職活動、親の介護、自分の病気の話、みんなが頷く更年期の悩みなど沢山の話題で大盛り上がりでした。

2次会、3次会もそのまま高島屋の中のお店をまわり、移動時間もほとんど無くおしゃべりをし尽くし、笑い、パワーが充満できた楽しい同窓会でした。



刺激しあえる仲間との時間

学8回生 林 真由 山内 理可 盛山 敬子 鶴崎 真純

私たちは、看護医療学部を卒業して3年が経過しました。忙しい合間を縫って、大学の友人と過ごすプライベートの時間は、どこか安心感がありました。ふと4人で集まったときにでた、「みんなで集まりたいね」の一言。そろそろ各々の人生のステップアップを考える時期でもあり、今回の同窓会を開催する運びとなりました。4年間を共にした友人と再会することで大学生活の思い出に華をさかせてもらえれば、という気持ちで準備をしました。

3年前の謝恩会の日、4年間の思い出を詰めた映像を作成しました。今回も現在のみんなの姿を一目見るような映像を残したいと思い、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー nmcl2年卒 ver.」の作成を始めました。予定を合わせてくれたり、各自で映像を撮り送ってくれたり、多くの同級生の協力を得ることができました。更に先生方やお世話になった方々にも協力して頂き、私たちの学年らしい暖かい動画が完成しました。

今回の同窓会は、お世話になった先生方にお声かけしましたが、学会等でご参加いただけず、100人程度いた同級生も夜勤等が重なり、結局15人での開催になってしまいました。実行委員の4人としては残念な結果ではありましたが、人数が少ないなかでも参加してくれた友人には本当に感謝しています。大学時代のこと、仕事のこと、違うフィールドで働いている友人の話も聞くことができ、刺激の多いあっという間の2時間でした。3年前の謝恩会で使用した映像と今回作成した映像を流しましたが、参加者の皆さんにはどちらも喜んでもらえ、開催してよかったと心から感じています。

この学部に入ったからこそ出会えたみんなとの縁を、これからも大切にしていきたいと思います。



はり灸治療室
せつげっか
月雪花

からだの声きいていますか？
病には意味があります。
女性には東洋医学が合うのです。

神保町に紹介者限定の鍼灸マッサージ治療室を開業しています。

火木金土 完全予約制 電話：03-6272-6888

詳細は **ヤフーブログ 月雪花** で検索！

まずはお電話ください。紅梅会の方は、紹介者は必要ありません。

看護師 保健師 鍼灸師 短5回生 伊藤章子(新田)

看護師さんと寄り添い向き合う転職サイト

看護のお仕事

PRODUCED BY Leverages

看護のお仕事

第37回 研修会報告

2014年10月24日、第37回紅梅会研修会を行いました。今回は徳島大学糖尿病臨床・開発研究センター特任助教でマイスター・ジャパン・ビジネス・ソリューションズ株式会社代表の谷口諭さん（総合政策学部卒）を講師にお迎えし、「糖尿病をアプリで支える－新しい健康支援のカタチー」と題して、ヘルスケアとITを融合した健康支援をテーマにお話いただきました。

谷口さんは大学在学中よりインターネットを活用した地域活性化のプロジェクトを運営し、卒業後は企業研修に携わる業務をされていましたが、糖尿病の方との出会いをきっかけにヘルスリテラシー向上の必要性を感じ、同社設立。現在では、携帯電話等を使って誰もが簡単にITが利用できる環境づくりを目指し、活動されています。

研修会当日は50名近い方々にご参加いただき、卒業生はもちろん、ヘルスケアやITビジネスに携わられている方、糖尿病の当事者の方々も多数参加され、谷口さんのパワフルなトークで会場は大いに盛り上がりました。「まずやってみることが大切！」と語る谷口さんのお話は、講演中のやり取りや事例をもとにしたグループワークなどもあり、講師・参加者ともに一体となり、自由な雰囲気の中での研修会となりました。



懇親会では異業種の方も多数参加され、男性の参加者も多く見受けられました。学部生と卒業生、そして多様なヘルスケアに関わる人々との交流は参加者同士の満足度も高く、盛会に終了することができました。

谷口さんの益々のご活躍を祈念するとともに、参加者の皆様、広報活動等にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。次年度はより多くの卒業生や在校生、教職員の方々にご参加いただき、学部内外や卒業生同士の交流、人脈形成の場としても活用できるような機会にしていきたいと考えております。（研修委員 学6回生 為我井 美佳）



紅梅会事務局より

2015年後期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となることができるようになり、今までに249名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・勤務先・回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい（8月31日締め切り）。

今回申込みをされた方は11月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

事務局在室時間 月・木曜日 13時～17時 直通電話・FAX 03-3341-8116

お知らせ 会報はゆうメールでお届けしています

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

昨年4月に完成しました会員名簿の在庫があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。（68回生 浅田 頼子）

計 報

19回生	三富とく子(旧姓大野)	2014年5月26日
19回生	宮坂 縫子(旧姓丸山)	2014年8月6日
19回生	尾木 幸子(旧姓鈴木)	2014年11月10日
21回生	菊池 スミ(旧姓角田)	2014年8月11日
23回生	高木 定子(旧姓田村)	2010年7月4日
25回生	宮坂登志子(旧姓飯田)	2012年2月4日
25回生	佐々木歌子(旧姓木内)	2014年10月10日
28回生	田村 千枝	2014年10月2日
54回生	三好 直子(旧姓中島)	2014年7月10日

2015年1月31日現在

編 集 後 記

この会報が、会員の皆様には変化していく病院や大学での教育の様子を、これから会員になる学生の皆様には卒業後のつながりの場があることを知る機会になればと思います。この数年「人と人との絆」「つながることの大切さ」が話題になりますが、私たちも今号で102号と継続されてきた会報でのつながりを、これからも大切にしていきたいと思っています。ぜひ、同窓会の開催や活躍されている同窓生の方の情報、ご意見・ご感想を事務局までお寄せください。よろしく願いいたします。

編集委員長 短1回生 江村 晴子